

# 炎症性腸疾患（IBD）外来開設のお知らせ



健診部主任部長  
消化器内科

YUJI MIZOKAMI

溝上 裕士 医師

5/6～消化器内科  
外来：毎週木曜午後

- 1981年 昭和56年3月 東京医科大学卒業
- 1981年 昭和56年6月 兵庫医科大学第4内科入局
- 1994年 平成6年8月 兵庫医科大学第4内科助手
- 1999年 平成11年5月 東京医科大学第5内科(霞ヶ浦病院、現:茨城医療センター)講師
- 2002年 平成14年5月 同上 助教授(平成19年4月より准教授)
- 2011年 平成23年4月 筑波大学附属病院教授/光学医療診療部長
- 2018年 平成30年1月 筑波大学附属病院消化器内科 科長
- 2018年 平成30年4月 筑波大学難病医療センター副センター長
- 2020年 令和2年11月 新東京病院 健診部 主任部長/消化器内科

## 御挨拶

昨年12月より当院で勤務しております、溝上裕士です。前職は筑波大学消化器内科ですが、長年にわたり消化管疾患、特に潰瘍性大腸炎（UC）、クローン病（CD）などの炎症性腸疾患（IBD）の診療、研究に従事してきました。IBDは主に10～30歳代で発症し、下痢、血便、腹痛などが持続し生活が大きく障害されます。原因は不明で、厚労省の指定難病です。元来は北米、ヨーロッパで多い疾患でしたが、近年本邦で急増しており、患者数は少なくともUC12万人、CD7万人と推定されています。治療は1990年代まではステロイド剤、アミノサリチル酸製剤（サラゾピリン、ペンタサ）および栄養療法（エレンタール）しかなく、難渋していました。しかし、2002年レミケードの保険収載以降、血球成分除去療法（GCAP）、タクロリムス（プロGRAF）、pH依存性メサラジン（アサコール）さらに2016年MMXメサラジン徐放剤（リアルダ）、腸溶性徐放性ブデソニド（ゼンタコート）、2017年ゴリムマブ（シンボニー）、抗IL12/23抗体製剤（ステラール）、ブデソニド注腸フォーム製剤（レクタブル）、2018年JAK阻害薬（ゼルヤンツ）、 $\alpha 4 \beta 7$ インテグリン阻害薬（エンタイビオ）など直近5年間で急速に新規の治療薬が上市され、我が国は世界でも有数の治療選択肢を得る事ができました。今までの経験を活かし、消化器内科長浜主任部長の下、消化器外科とも連携の上、最新、最善の治療を提供させて頂きたいと考えています。IBDまたはIBDが疑われる患者さんがおられましたら、消化器内科受付までお申し出下さい。

## 所属学会

- |  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 日本内科学会</li> <li>➤ 日本消化器病学会</li> <li>➤ 日本消化器内視鏡学会</li> <li>➤ 日本消化管学会</li> <li>➤ 日本肝臓学会</li> <li>➤ 日本門脈圧亢進症学会</li> <li>➤ 日本消化器がん検診学会</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>認定医</li> <li>専門医・指導医、財団評議員</li> <li>専門医・指導医、社団評議員</li> <li>胃腸科専門医・指導医、評議員</li> <li>専門医</li> <li>評議員</li> <li>認定医</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 日本ヘリコバクター学会</li> <li>➤ 日本カプセル内視鏡学会</li> <li>➤ 日本小腸学会</li> <li>➤ 日本リウマチ学会</li> <li>➤ 日本東洋医学会</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>感染症認定医、評議員</li> <li>指導医、評議員</li> <li>評議員</li> <li>専門医</li> <li>漢方専門医</li> </ul> |
|--|--|---|--|